



格子戸のある町を歩く

松阪市

六軒町く市場庄町く

久米町

四日市市の「日永の追分」で東海道と分岐し、津市・松阪市などを経て伊勢神宮へと向かう道筋は、伊勢街道と称されます。この街道沿いに続く松阪市市場庄町周辺の家並みには、妻入りの屋根や格子戸のある家が見られ、情緒が漂います。

今から20年前、格子戸のある家並みを未来へと受け継ぐために設立されたのが、「格子戸の会」です。タウンウォッチングやワークショップなどで地域の魅力を再発見する中、各家の屋号を杉板に書いて掲げるなど、さまざまな活動を行ってきました。

今回は、地域の「宝物」、格子戸のある町をゆつくりと散策します。取材・文：中村真由美



三渡橋



常夜灯

三渡橋を渡って六軒の追分へ

今回の散策は、JR「六軒」駅から始まります。「では、架け替えられたばかりの三渡橋をめざしましょう」との案内で、駅舎を後にします。住宅地をしばらく歩いたところで、道は突き当たりになり、目の前を少し細い道が南北に続きます。この道が伊勢街道で、街道を南へと進むと見えてくるのが、三渡橋です。お話し通り、令和元年に渡り初めが行われたばかりです。

「三渡川には、潮の満ち引きによって



今回の案内人は「格子戸の会」代表の中村 文恵さん。「武四郎まつり実行委員会」副委員長も務めるなど、市内の有形無形の歴史遺産を守るため、日々尽力していらっしゃいます。

渡る場所が3か所あったことから、その名が付いたといわれています」と名前の由来を教わりながら橋を渡り、六軒町へと入ります。すると、見上げるほど大きな常夜灯と道標に出迎えられました。街道を挟んで東側に立つ常夜灯は、文政元(1818)年に建立されたもの。火袋などは当時のものではありませんが、存在感十分です。一方、西側に立つ道標には、「いがごへ追分 六けん茶や」右いせみち 六軒茶屋」などと太く刻まれているのがわかります。

道標の文字通り、六軒は初瀬街道と伊



道標

勢街道との追分(分岐点)でした。初瀬街道とは、伊勢神宮参拝を終えた旅人が、六軒の追分から伊賀市などを経て奈良県の初瀬(長谷)方面へと向かった道のこと。ここには、茶店や旅籠も多く存在し、六軒茶屋と称されました。

また、伊勢参宮講の常宿の一軒である旧磯部屋には、講看板が残されていて、随時、見学が可能となっています。



旧磯部屋の講看板





市場庄町の家並み

市場庄町で格子戸めぐり

旧磯部屋で、往時の賑わいを彷彿させる講看板を見学した後は、再び伊勢街道を進みます。すると、市場庄町へ入ったあたりから、妻入りの屋根と格子戸の家が目引くようになりました。これが同町の大きな特徴で、三角形の妻入り屋根が重なって見える光景は独特の風情があります。

「格子戸の棧さかを見てください。角が丸くなっているでしょう?」の言葉に促されて近付いてみると、確かに角が取れて丸みがあります。これは、お盆と暮れに



屋号「的屋跡」を記した木札

掃除した結果なのだと教わります。暑い日も寒い日も、せつせと一本ずつ棧を磨く人々の姿が目につかぶようです。優しく見つめる中村さんからは、この貴重な慣習が、今後もしも続いてほしいとの想いが伝わりました。

斎王ゆかりの忘井わすれい

屋号の説明などを聞きながら楽しく歩いていると、四つ角に立つ、小さな道標に気がきました。「忘井之道」と刻まれています。忘井とは、古くからこの地にあった井戸のことで、天永元(1110)年に行われた姤子内親王の斎王群行に同行した官女甲斐かひが、このあたりを通った際に、望郷の念を込めて「別れゆく都の方

の恋しきに

いざ結び

みむ 忘井

の水」と詠

んだ話が伝

わります。

傍らには歌

碑もたたず

んでいまし

た。なお、

忘井の伝承

地は嬉野宮



歌碑



忘井

市場庄町の南端で、ここから先は久米町に入ります。

格式の高さを示す長屋門

久米町に入ると、街道が大きくカーブし、庚申堂・常夜灯行者堂・山ノ神2墓・石標が整然と立ち並ぶ一角にたどり着きました。これらは江戸時代から明治時代にかけて立てられたもの。多くの参拝者が、ここで旅の安全を祈ったことでしょう。

カーブに沿って歩いた後に見えてくるのが、南北朝時代から続く名家、舟木家の屋敷です。同家では、重厚感のある、な

古町内にもあり、いずれも大切に保存されています。忘井に立ち寄った後は、近くの神楽寺で小休憩するのもよいでしょう。同寺には見ごたえのある山門や藤棚があります。



神楽寺の山門

再び、街道へと戻り、大正7(1918)年建立の「市場庄公会堂(旧米ノ庄村役場)」を眺めてから進むと、やがて「格子戸の町並み案内」と記された大きな案内板が見えてきました。このあたりが



「市場庄公会堂」



案内板



久米町の伊勢街道沿いに立ち並ぶ行者堂や山ノ神など



舟木家長屋門

問 格子戸の会

TEL 0598-15612493

(中村文恵さん)

まこ壁の長屋門を見ることができました。舟木家の長屋門を見学し、その少し南にたたずむ庚申堂や山ノ神2墓に手を合わせれば、終点の近鉄「松ヶ崎駅」までは5、6分程度の距離。格子戸のある町めぐりは、これで終了です。

なお、同駅も起点の「JR二軒駅」も本数が少ないため、事前に時刻表を確認した方がよいでしょう。起点を近鉄「伊勢中原」駅にするなど、都合に合わせてルートを選択してもよいでしょう。